

科目名	工芸技法論演習		
授業形態	演習	学年	2
開講時期	2021年度 前期	単位数	1
担当教員	宗像 利浩、長谷川 克義		
内容および計画	会津地域は会津若松を中心に城下町が形成され様々な工芸文化が発展してきた。本学での学習機会を生かし、工芸に対する理解をさらに深めるため、会津漆器と並び国指定の伝統的工芸品である会津本郷焼（陶芸）と、古来各地で行われてきた鑄金技法を用いた工芸品の基礎制作演習を行う。 陶芸演習を10時限、鑄金演習を5時限とする。		
1	陶芸演習（宗像）和食器と洋食器の違い、陶器と磁器の違い		
2	器の基本となる湯のみとめし茶碗を制作		
3	仕上げ		
4	オリジナル作品とスープ皿制作		
5	〃		
6	〃		
7	仕上げ		
8	作品の釉がけ、窯詰め、火入れ		
9	窯出し、点検		
10	出来上がった器にて皆で食事する。		
11	鑄金演習（長谷川）鑄金技法概要説明課題の説明、アイデアの検討		
12	アイデア決定、油土による原型制作		
13	石膏鑄型の制作		
14	鑄型焼成、鑄込み（吹き）、仕上げ		
15	仕上げ作業、講評		
教科書			
	タイトル	著者名	出版社
			ISBN
			発行年
とくに使用しない。			
参考書	状況に応じ配付する。		
成績評価			
	評価方法		割合(%)
出席状況、受講姿勢			70
演習作品評価			30
学習到達目標	演習を通して素材の特性や表現の可能性について直接学ぶ機会とし、伝統的工芸の持つ意味を理解するとともに、ものづくりの可能性について提言するための基礎能力を身につける。		
先修条件	制作工程の理解を深めるため、2年前期科目の工芸技法論を受講する事が望ましい。		

実務経験	
その他	